
クリスマスイブの惨劇（２０００字、冬の美女）

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマススイブの惨劇（2000字、冬の美女）

【Nコード】

N5547Z

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

バイオレンス・コメディ。2000字設定。時はクリスマススイブです。恐ろしいから、子供は読まないように。トラウマになるよ！

ロボさんの企画で2000字で冬の美女を描くというのがあった。三人が優勝した。いずれもいい作品だった。レベル高いね。もつともオレが書いたらもつとすごいことになったがな！

しかし、オレは今回見送った。プライベートで難問山積みで引きこもりのなっていたのだ。しかし、それじゃいかんということで今から2000字で冬の美女を書く。松下由起子は、雪の中、手袋をはめた手にはあと白い息を吐いた。今日はクリスマススイブである。待っている。待っているけどなかなか彼氏が来ない。ケータイで電話してみた。「ごめん。残業だ」信じられない一言である。彼女をほったらかしにして仕事を優先させるとは。

しかし、不況だから仕方がないのかもしれない。好景気の時代と今は様子が違う。ダメなものもあった。好景気の時代、大事なスイブの日に仕事を優先させたら頭が狂ったと思われたであろう。

由起子は、仕方ないので歩き始めた。家に帰って一人で寂しくケーキでも食べようと思った。歩いてるうちにだんだんイライラしてきた。カップルたちがいちゃいちゃしてる。由起子は包丁を握り締めた。

「ぶっ刺してやる」

由起子は、前を歩いていたカップルの男の方の背中に包丁を刺した。「うぎゃああああああ」「いやああああああ」男はアスファルトに倒れた。女は尻餅をついてがたがた震えている。由起子は男に馬乗りになり、なおも執拗に背中を刺す刺す。由起子は返り血を浴び、真っ赤だ。男の彼女はあまりのことに気絶してしまった。

由起子は、あたし何してんだろと思った。包丁を捨てた。「ああ。やばいことしてしまった。つい、してしまった。あたしはいけない女だ」また包丁を拾う。「こうなったら切腹してお詫びするしかない

い」

由起子は、腹を出して包丁を当ててみた。「痛い……」あまりに痛かった。だから、由起子は切腹はあきらめた。生きてればいいことがある。死んでしまったらどうにもならない。

由起子は前向きな気分になってきたので、また歩き始めた。つらくても生きようと。つらくても彼氏の分も生きようと。精一杯生きようと。彼氏まだ生きてますけど……。

雪がしんと降る。

しばらくして、由起子は警官に呼び止められた。「あなた、人を刺しましたね」「え。なぜそれを」「そんだけ真つ赤なら解ります」由起子は逃げようとした。しかし、警官が由起子の腕をつかんだ。

「離しなさい。無礼者。離しなさい」「いいえ。離しません。これが私の仕事です」由起子はあまりにイラつときたので、拳銃を警官に向けた。「や、やめなさい。狂いましたか」「ええい。黙れ」由起子は発砲した。「や、やられたああああ」警官は胸から血をぷしゅーと出して、アスファルトに倒れた。しばらくして、救急車が来て、警官を担架に乗せ運んだ。「はあ。何であたしってこうなんだろう。すぐに怒る癖直さなくっちゃ。あ。そうだわ」由起子は急に思いついた。「ちびっこたちにクリスマスプレゼントをあげよう。そうすれば罪滅ぼしになる」

深夜になって、由起子は、袋にプレゼントを入れて、アパートを出た。見た目はサンタクロースとほぼ同じである。赤い帽子に赤い服。唯一違うところはミニスナとこと長いブーツを履いてるところか。「まずはこの家に入ろう」窓が閉まっている。「ええい。このうまいまい窓だね！」由起子はハンマーで窓を叩き割った。部屋でちびっこがびっくりしてる。「えええええ。おねえちゃん誰」「あ、あ、由起、いえサンタよ」子供のお父さんとお母さんがあわててやってきた。「あ。あなた犯罪者ですね。許しませんよ」お父さんは猟銃を由起子に向けた。「あなた、撃っちゃいなさいよ」「任せておけ。ようし」「うるさいね！」由起子はお父さんの頭の上に

ハンマーを振り落とした。「うぎゃあああああ」死んだ。「こいつ。よくも旦那を！」お母さんがキレて日本刀を構えた。だから、由起子は、日本刀でお母さんをばさりと斬った。子供は屍餅をついて、がたがた震えている。由起子は子供に本を渡した。「平和憲法を守れ……何この本」「クリスマスプレゼントよ。平和な日本にしようね。メリークリスマス」由起子はウイंकをした。子供は放心状態だ。精神障害を起こした。

外は寒かった。雪がしんしんと降る。

由起子は、ふと、ジングルベルを口ずさむ。気持ちがよくなってきた、大声でわめいた。歌った。すると、おっさんが飛び出して、怒鳴った。「あなた。うるさいよ。何時だと思ってるの！」由起子はイラつときて、袋から拳銃を取り出した。プレゼント用だけど使っちゃおう。

ずどん。

倒れた。「あははははは。あたしに逆らうからこついう目に遭うんだよ。むは」

由起子は、笑ったが虚しかった。彼氏と、イブの夜を過ごしたかった……由起子は泣きそうだった。

ケータイの着信音。

「あつ豆ちゃん！」

「由起子。やっと仕事終わったよ。今どこにいる??」

由起子の笑顔。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5547z/>

クリスマスイブの惨劇（2000字、冬の美女）

2011年12月18日17時52分発行